

教養部会教授 新村 洋史

1. 研究活動

1. 大阪市・中学校給食の問題点について	2013. 8	食べもの文化8月号 (芽ばえ社)	大阪市は中学校給食未実施率が日本最大である。その汚名を返上しようとして実施した給食の実態は、業者弁当を有料で生徒に購入させるというものであった(2012年度以降)。しかしそれは、学校給食法の趣旨(第2条)に反し、食育を実施する措置とは到底言えないことを論証した。
2. 人間力を育む教養教育—危機の時代を生き抜く—	2013. 8	新日本出版社	大学においても教養教育を充実させることなくして、今日の大学教育の衰退を克服することはできない。そこで、人類の有史時代からの、特に古代ギリシャ時代におけるバイディアの思想から今日に至るまでの教養思想を検討した。その上に立って、今日における教養形成にあたって、学生自身のコンテクスに立って、あらゆる事柄を批判的に考察する方法原理について提起した。さらに、1945年敗戦以降、今日まで教養論を吟味し、今日の課題を提示した。その上で、自己の教育実践をふりかえった。
3. 私立大学の未来を切り拓く	2013. 8	東京高等教育研究所 ニュースレター No.66 (東京私立大学教職員組合連合)	私立大学が抱える問題点を総括した東京高等教育研究書編『私立大学の未来を切り拓く』という著作について、その書評論文を執筆した(全5頁)。
4. 学校給食の今日的意義について	2013. 9	食べ物通信9月号 (食べ物通信社)	生活環境やライフスタイルの激変した今日において、子どもの食生活を改善する上での学校給食の知的意義について論じた。

5. 生きる力を育む食育文化	2014. 2	臨床心理・特集号 (福村書店)	食は身体的な成長発達にとどまらず精神的・人格的な生きる力をも形成させる営みであることを論証した。
6. 大学はこれでよいのか?	2014. 2	人間と教育 80号 (民主教育研究所)	教育研究を中心に、現代の大学の問題を論じた。(新村洋史、光本滋、伊藤稔、岩井裕樹)
7. 古代ギリシャにおける「共同食事」の意義に関する考察—共食文化と教養形成の起源を探る	2014. 3	名古屋芸術大学研究紀要 第35巻	プラトン、アリストテレスの作品を中心に、古代ギリシャの都市国家における共同食事の習俗が、同時に市民の共同体に生きるための教養形成の場であったことを考察した。
8. 体育・健康教育・食教育	2014. 2	日本の民主教育 2013 (大月書店)	現代日本の子どもの食事の問題点とそれを克服すべき食教育の課題について提起した。 (新村洋史、森敏夫、野井真吾)

2. 教育活動（教育実践上の主な業績）

大学院授業担当 有 無

授業科目 教育制度論		教職センター長の任にあったこともあり、芸術教育及び諸教員の授業の基となっている教育研究に関する論集『教職センター紀要 第1号』(2014年3月)を編集・刊行することができた。これは個人的な教育研究ではなく全学教員の成果である。
◆前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
学生が自分自身でも学習・研究できるように、教科書を作成した。	『人間力を育む教養教育—危機の時代を生き抜く—』(新日本出版社)として刊行し、テキストとして活用した。	
授業科目 教職実践演習（美術学部・デザイン学部の教職課程・必修）		
<input type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
名古屋市内で中学校教師の体験がある教員を招いて、美術学科及び生活指導関連の授業に関する講義や討論をした。	2人の元中学校教員が指導された生徒の作品を見せてもらい、その作品が作られるまでの指導内容について学ばせていただいた。生活指導についても同様。	

3. 学会等および社会における主な活動

第52回教育科学研究会全国大会	8月8日～10日（大阪）	学校づくりの今日的課題について問題提起した。
全国教育のつどい 2013 (全国教育のつどい 2013 実行委員会) (名古屋大学)	8月18日～20日（名古屋大学）	子どもの現状・問題点と食教育について問題提起した。
旭丘高等学校 全学教育研究集会	1月29日・30日（小田原）	今日の食教育と家庭科の役割について課題提起した。
北陸東海地区 全私教協研究会	2月11日（相山女子学園大学）	「教職実践演習」1年目の取り組みと課題について報告した。